

「TKCタックスフォーラム2021」の開催について

令和3年10月15日(金)に、東京・千代田区のホテルニューオータニ鶴の間において「TKCタックスフォーラム2021」を開催いたしました。

今回で17回目の開催となる「TKCタックスフォーラム」は、昨年の開催を見送りましたが、2004年に第1回が開催され、毎回、税理士の皆さまにとって参考となる事柄をテーマとして企画しています。

コロナ禍という厳しい状況の中、会場においては入場前の検温、消毒を徹底するとともに、会場内においてはソーシャルディスタンスを確保した座席等に配慮し、約150名が参加しました。また、Webにより全国各地から約550名が参加する、初めてのハイブリッド方式により行い、無事終了することができました。

主催者を代表して、共催の公益財団法人租税資料館、後援のTKC全国会並びに講師をお引き受けいただいた中里実政府税制調査会会長、大鹿行宏国税庁長官をはじめ、関係者の皆さまのご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

午前の部は、「コロナとオリンピック後の税制改革——納税環境改革等の税制の最新動向」と題して中里実政府税制調査会会長から、電子帳簿保存法改正を含む将来を見据えた納税環境整備、暦年課税の扱いを含む資産税改革等の税制改革の議論がどのように行われているかという点について、最新の裁判例等の情報に触れつつ、ユーモアを交えながらお話しいただきました。

午後の部は、「税務行政の現状と課題」と題して大鹿行宏国税庁長官から、経済取引のグローバル化・デジタル化の進展及び新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえた、最近における税務行政の現状と課題について、税務行政のデジタル・トランスフォーメーションに基づく「税務行政の将来像2.0」や税務行政の新たな取組等を含む多くの項目を、分かりやすくお話しいただきました。

TKC税務研究所は、今後とも「TKCタックスフォーラム」の開催をはじめとして、信頼できる税務情報等の提供を通じて、「租税正義の実現」と「関与先企業の発展」に貢献する税理士の皆さまのためにお役に立てるよう微力ながら努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

TKC税務研究所長 谷口裕之